

令和3年度

教育委員会

教育行政点検・評価報告書

(対象：令和2年度事業)

防府市教育委員会

令和3年 9月

は　じ　め　に

近年、急速に進む人口減少・高齢化や技術革新・グローバル化の進展など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした中、防府市教育委員会では、平成26年3月に「防府市教育振興基本計画」を策定し、これまでも「教育のまち日本一」を念頭に置き、本市教育の基本方針である「生きる力」を育む教育行政を推進してきました。

「防府市教育振興基本計画」では、「主体的にたくましく生き抜く力」と「豊かな人間性」を備えた人材の育成を基本目標として、「知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進」「地域ぐるみの教育の推進」「安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進」「一人ひとりがきらめく生涯学習の推進」「郷土の文化・伝統の継承と創造の推進」を施策の5つの柱とし、それぞれの教育分野における重点施策を掲げ、その施策に沿った事業を実施することとしています。

重点施策の各事業の執行状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会内の各課において自己評価を行うとともに、学識経験者をはじめとする3人の外部評価者から意見を求め、教育行政点検・評価報告書として作成しました。

本市教育委員会といたしましては、本市における教育の推進目標に沿った各重点施策がどのように展開され、どのような進捗状況にあるのかを、この報告書を公表することにより、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政の推進を図ってまいります。

目 次

■ 点検・評価基準について	1
■ 令和2年度教育委員会の重点施策等の点検・評価	
1 教育総務課	2
2 学校教育課	9
3 生涯学習課	37
4 文化財課	49
■ 学識経験者の総評	55

■ 点検・評価基準について

1 点検・評価の目的

防府市教育の推進目標に沿って、広範かつ専門的な教育行政事務が効果的に執行されているかを教育委員会自らが事後にチェックし、その活動を改善するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価の対象

令和3年度の点検・評価対象は、令和2年度「防府の教育概要」に掲げている教育委員会の重点施策事業とします。

3 点検・評価の方法

事業についての概要・実績等を、「到達度」、「事業効果」、「効率性」、「方向性」で評価したうえで、事業の各評価項目の評価点数を基に総合評価のランク付けを行います。

4 評価（評価の視点）

評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
評価の視点 点数	<ul style="list-style-type: none"> 事務や事業の達成状況 課題等への対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性 本市教育への寄与度合 	<ul style="list-style-type: none"> 投入資源(経費、人材、時間)の妥当性 経費削減の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の事業展開方針
4点	事業を計画どおり実施し、事業の課題や改善策、懸案事項についても十分な対応ができた。	事業効果が非常に高く、他事業にも良好な波及効果を生じさせた。	経費削減の工夫がなされ、費用対効果が高かった。	有益な事業であるため、今後、事業を拡充して実施する
3点	概ね計画どおりに事業を実施できた。	事業実施により期待どおりの事業効果があった。	事業内容に相応の投入資源で、効率的に事業を実施できた。	今後も継続して事業を実施する。又は、事業目的を達成したため事業を終了する。
2点	事業の実施状況にやや不十分な面があった。	期待していた事業効果にはやや達しなかった。	一定の事業効果を得るために必要以上の投入資源を要した。	事業内容の見直しが必要である。又は、今後、事業を縮小する。
1点	計画していた事業の一部しか実施できなかった。	事業効果が低かった。	事業の効率性が低かった。	今後、事業を廃止する。

5 総合評価

評価	AA	A	B	C
	優良	良好	努力	反省
点数	16・15点	14～12点	11～9点	8～4点

■ 令和2年度教育委員会の重点施策等の点検・評価

〔1〕 教育総務課

◎ 基本方針

教育の様々な課題に柔軟かつ迅速に対応し、教育委員会及び教育部各課の連携のもとに円滑な教育行政の推進に努める。

学校施設は多くの児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるため、構造体の耐震化に引き続き、非構造部材の耐震化を進めながら、今後は老朽化した施設について学校施設長寿命化計画に則り、児童生徒が安全で安心のできる教育環境の確保を図る。

市立図書館については、「防府市図書館サービス振興基本計画」に沿って、図書資料・視聴覚資料の充実と情報提供サービスを推進する。また、市立図書館と学校図書館のネットワークシステムの活用及び学校司書の配置により、学校図書館の充実をめざすとともに「防府市子ども読書活動推進計画」に基づき児童生徒等の読書活動の推進を図る。

◎安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

(1) 安全・安心な施設整備、教育環境の確保

事務事業	学校施設の耐震化					
事務事業概要	非構造部材の耐震化対策として、松崎小学校屋内運動場の外壁の改修や体育器具等の落下防止対策を行う。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	<ul style="list-style-type: none"> ・松崎小学校屋内運動場の外壁改修工事を実施した。 ・松崎小学校屋内運動場の体育器具等の落下防止対策工事を実施した。 					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	改修工事及び落下防止対策工事について、予定通りに工事を実施することができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	非構造部材の耐震化として、屋内運動場の体育器具等の落下防止対策工事を早急に進めたいため、財源の確保に努め、複数校の工事を進められるよう、関係部署と協議を進める。					

事務事業	学校施設の整備					
事務事業概要	小・中学校における良好な教育環境等を確保するため、学校施設長寿命化計画に則り、施設の整備及び適正かつ迅速な維持管理を進める。 安全対策として全校に防犯カメラの設置を行う。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐波小学校校舎屋上防水工事 ・華浦小学校渡り廊下手摺り改修工事 ・華城小学校屋内運動場スロープ改修工事 ・佐波中学校トイレ梁ほか改修工事 ・国府中学校プール更衣室ほか改修工事 ・防犯カメラ設置工事 22校 (富海小・牟礼小・勝間小・松崎小・華浦小・野島小中・向島小・中関小・西浦小・華城小・佐波小・小野小・右田小・玉祖小・富海中・牟礼中・国府中・桑山中・華西中・小野中・右田中・大道中) <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため、市内の小中学校(19校)のトイレの洋式化工事を前倒しで実施 (富海小・牟礼南小・松崎小・華浦小・新田小・向島小・中関小・西浦小・華城小・佐波小・玉祖小・大道小・富海中・華陽中・華西中・佐波中・小野中・右田中・大道中)					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
	予定していた改修工事や防犯カメラ設置工事について、着手及び完了することができた。また、前倒しで実施したトイレ洋式化工事についても全ての学校で工事を完了することができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	小・中学校における良好な教育環境等を確保するため、学校施設長寿命化実施計画を策定する。					

事務事業	第2次防府市教育振興基本計画の策定					
事務事業概要	防府市の教育行政を総合的かつ計画的に推進するために、第2次防府市教育振興基本計画を策定する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	第2次防府市教育振興基本計画を策定した。					

評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	4	3	3	3
評価	<p>庁内並びに外部委員による策定委員会を開催し、これまでの取組と成果を踏まえて計画案を作成し、パブリックコメントの実施を経て、予定どおり第2次防府市教育振興計画を策定することができた。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>第2次防府市教育振興計画に基づいた教育施策を実施するとともに、事業の実施について自己点検・評価を行い、外部評価者による検証を元に、PDCAサイクルに基づき見直しを行う。</p>					

(2) 教育機会の確保

事務事業	修学支援の充実
事務事業概要	<p>学習機会の確保に向け、高等学校入学準備金や奨学資金貸付などにより修学支援の充実を図る。</p> <p>また、平成28年度に創設した定住促進奨学金返還支援制度の周知を図り、若者の本市への定住をより一層促す。</p>
令和2年度の主な取組(具体的に)	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校入学準備金貸付 保護者13人に貸付実施 (2人進路決定の遅れにより翌年度に貸付繰越) ・一般奨学金貸付 大学生等8人に貸付実施 ・定住促進奨学金貸付(卒業後市内に定住する意思を持つ者に対し一般奨学金と併せて貸付するもの) 一般奨学金貸付者5人に貸付実施 ・新型コロナウイルス感染症等の影響による経済的な理由により、学生が大学等での修学をあきらめることのないように、また、より利用しやすい制度とするため奨学金制度の見直しを行った。 <p>【見直し内容】</p> <p>貸付月額増額(月額3万円又は月額4万円の選択制) 入学一時金の創設 (奨学金の一部を入学一時金としてまとめて貸付) 返還期間の延長(貸付期間の3倍以内の期間) 定住促進奨学金の利子の廃止 貸付時期の前倒し(初回の振り込みを4月に実施)</p>

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	4	4	3	3
	<p>奨学金制度については、制度の拡充を図り、令和3年度の貸付を4月から行えるようにスケジュールを見直すことで、より利用しやすい制度にすることができた。また、市内高等学校を通じて在籍する3年生全員に令和3年度奨学生募集の周知を行ったところ、申請者が大幅に増加した。</p> <p>高等学校入学準備金については中学校を通じた保護者への周知を行い、前年度と同程度の申請があった。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>制度改正や周知の強化、社会情勢の変化などにより、申請者数が増加していることから、制度を必要としている市民へ、より効果的な周知を図るため、進路の検討をする時期に合わせた広報を行う。</p>					

(3) 学校図書館の充実と読書活動の推進

事務事業	市立図書館等との連携による学校図書館活動の充実					
事務事業概要	<p>学校図書館管理システムの運用により、蔵書管理の適正化と学校図書館を利用した学習活動の活性化を図る。</p> <p>また、学校図書館と市立図書館の横断検索システムの活用により、所蔵情報を共有化し有効活用を図る。</p> <p>授業に直結する図書の整備や蔵書の適正な更新により、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能充実に努める。</p>					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<ul style="list-style-type: none"> 市内小・中学校の学校図書館管理システムを活用した。 市立図書館が学校図書館の選書会及び学校支援図書の貸出支援をした。 					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> 市内小・中学校の学校図書館管理システムの活用により、コロナ禍でありながらも、学校間では387冊の相互貸借があった。 市立図書館から2,883冊の学校支援図書の貸し出しを受けたり、図書館の新刊本等を使った選書会（6校）が開催されたりと支援が充実した。市立図書館では、授業に活用できるよう、学校支援図書に新しく「防災」のセットが追加された。 					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>市内の小・中学校図書館の所蔵情報を一元化した、学校図書館管理システムの活用により、資料の共有化と利活用を更に進める。</p> <p>市立図書館から学校図書館への図書の貸出支援を促進し、新たな学校支援図書を加えるなど、児童生徒の学習活動に必要な図書の充実を図る。</p>					

事務事業	学校司書及び学校図書館コーディネーターの配置					
事務事業概要	<p>学校図書館の充実のため、学校司書の資質向上を図るとともに、学校及び図書館担当教諭との協働を進める。</p> <p>学校図書館コーディネーターを配置して、学校教育課との連携により、授業における学校図書館の一層の活用を促進し、児童生徒の資料・情報活用能力の向上を図る。</p>					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書の研修・情報交換により全体的な連携を強化した。 学校図書館コーディネーターが学校図書館を訪問し、学校や図書館担当教諭に情報を発信した。 					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	4	4	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館コーディネーターが学校司書に対してきめ細かく指導・助言をしたことによって、学校司書の資質が向上した。 研修により学校司書同士の連携が強化され、各学校図書館の環境や取り組みについての情報が共有できた。 学校図書館コーディネーターが学校を訪問し、学校や図書館担当教諭に情報を発信したことにより、各学校図書館担当教諭と学校司書が連携して、様々な取組を行うことかできた。 様々な取組の結果、市内小中学校の総貸出冊数が増加した。 					
令和3年度事業の課題・改善点	学校図書館コーディネーターと学校司書の連携を強化し、学校図書館の効果的な活用を促進する。					

◎一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

(1) 図書館の充実と読書活動の推進

事務事業	図書館利用者サービスの充実
事務事業概要	<p>指定管理者制度を導入した市立図書館において、適正な運営とサービスの向上を図る。平成27年度策定の「防府市図書館サービス振興基本計画」に沿って、図書館サービスの向上を図るとともに、「防府市図書館協議会」において、進捗状況を検証する。</p> <p>【新】令和3年度から7年度までを計画期間とする「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」を策定する。</p>
令和2年度の主な取組（具体的に）	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者選定委員会を設置し、防府市立防府図書館指定管理者を選定した。 「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」を策定した。

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・防府市立防府図書館指定管理者選定委員会を設置し、令和3年度から7年度まで指定管理者を選定した。 ・第2次防府市図書館サービス振興基本計画策定委員会を設置し、これまでの取組と成果を踏まえて、令和3年度から7年度までを計画期間とする「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」を策定した。 					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>図書館サービスの向上について、防府市図書館協議会での点検・評価を図書館運営に反映させるとともに、「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」に沿った適切な指導を行う。</p>					

事務事業	「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づく、子どもの読書活動に係る各種事業の実施					
事務事業概要	令和元年度策定の「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に沿って、小・中学校及び関係機関等との連携を図り、子どもの読書活動を推進する。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	「防府市 図書館を使った調べる学習コンクール」を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	3	2	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響による休校や夏休み短縮により、「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」の応募作品が少なかった。 					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>図書館資料の活用を促進するため、「防府市 図書館を使った調べる学習コンクール」について積極的に周知する。</p>					

<p>外部評価者の 意見</p>	<p>全般に着実な成果をあげている。「修学支援の充実」や「学校司書及び学校図書館コーディネーターの配置」など、評価に関する記述が手厚くなされており、わかりやすい。一方、「子どもの読書活動に係る各種事業の実施」については昨年度に比べ評価を下げているが、その理由がわかりにくい。</p>
<p>外部評価者の 意見</p>	<p>コロナ禍により、子どもの読書活動に係る各種事業の実施における総合評価がA→Bに下がっている事が気がりではあるが、一過性の事例として今後活かしていただきたいと思う。</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、トイレの洋式化完了等の評価数値はもっと高くてもいいのではないかと。小・中学校における良好な教育環境を確保するためにも、屋外のトイレの早急な美化整備に期待したい。</p>
<p>外部評価者の 意見</p>	<p>小中学校全ての学校で、トイレの洋式化工事及び防犯カメラの設置工事を完了したことは評価できる。</p> <p>学校施設長寿命化実施計画の策定については早急に望む。</p> <p>第2次防府市教育振興計画に基づいた教育施策の実施をお願いしたい。</p> <p>コロナ禍ではあるが、子ども読書活動に係る各種事業のますますの推進を望む。</p>

〔2〕 学校教育課

◎ 基本方針

学校教育を生涯学習の基礎としてとらえ、「豊かな人間性」と「確かな学力」、そして「健康・体力」を備えた児童生徒の育成をめざした教育を推進する。

◎知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

(1) 幼児教育の充実

事務事業	幼保・小の連携の推進					
事務事業概要	小学校第1学年入学当初において、生活科を中心とした合科的な指導を充実させる。また、「幼保・小連携教育研修会」を実施し、幼稚園・保育園（所）、小学校の連携体制を構築する。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	各小学校で作成したスタートカリキュラムをもとに、生活科を中心とした学校生活に慣れるための指導を行った。幼保・小連携協議会には46人の参加があった。幼保・小接続期の教育のあり方について協議するとともに、各園、各校のアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについて情報交換を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	関係小学校、幼稚園、保育園（所）の交流やスタートカリキュラムの実施により、1年生児童が安心して学校生活を送ることができている。 幼稚園・保育園（所）と小学校の教諭がそれぞれの取組や子どもたちの様子について情報を共有することにより、個に応じた指導を行うことができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	今後も継続して研修や情報交換の機会をもつとともに、関係小学校、幼稚園・保育園（所）同士で連携し、幼児・児童の交流や職員同士の参観、情報交換の場を充実させていくことで、より効果的な連携を進めていく必要がある。					

事務事業	子育てに関する相談体制の充実
事務事業概要	5歳児発達相談会や就学相談を実施し、幼児の発達特性について保護者への理解を図り、早期からの支援体制の充実を図る。
令和2年度の主な取組（具体的に）	5歳児発達相談会86人と就学相談80人の保護者に対して相談を実施した。療育機関や発達に関する医療機関を紹介するなど、保護者の子育ての悩みや不安を解消したり、一人ひとりの実態に応じた支援を行った。

	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
評価	<p>就学前の早い段階からの発達に関する相談会を実施することにより、早期に療育機関や医療機関等に繋げることができ、児童の適正な就学に繋げることができた。</p> <p>更に、専門の相談員から保護者に対して子育てに関する適切なアドバイスをすることにより、日々の適切な児童への関わりをすることができるようになるなど、就学前の保護者への支援に効果がある。</p>				
令和3年度事業の課題・改善点	<p>相談が必要と思われる5歳児の参加を促すことが困難なことから、その保護者に対してどのようにアプローチし相談会への参加や支援につなげていくかが課題であり、引き続き園から日頃の生活の様子や、将来を見据えた早期の対応等を粘り強く説明していかなければならない。</p> <p>また、年々相談者が増加しているため、医師や心理士等のスタッフの確保が課題である。</p>				

事務事業	乳幼児機関への支援の充実				
事務事業概要	「幼児教育の無償化」に伴い、新たな給付事業の元で支援の充実を図る。また、防府市幼稚園連盟に対する補助金を交付する。また、私立幼稚園における子どもの読書活動推進に要する費用を補助する。				
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>市内の私立幼稚園1園に対し、学校法人立幼稚園運営費補助金を交付し運営経費の補助を実施した。</p> <p>また、幼稚園連盟補助事業により、防府市幼稚園連盟の行う研究調査及び研修活動等に対し補助を行った。</p> <p>「幼児教育の無償化」により、1人月額25,700円を上限に補助金を交付した。</p> <p>私立幼稚園における子どもの読書活動推進するため園児数等に応じて補助した。</p>				
評価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
	私立幼稚園に対し、園の運営等に必要な援助を行うことができた。				
令和3年度事業の課題・改善点	公立幼稚園を有しない本市において、私立幼稚園への支援は幼児教育の充実を図るために必要な施策であり、引き続き支援を行う。				

(2) 確かな学力の育成

事務事業	児童生徒の実態に応じた指導計画の作成					
事務事業概要	全国学力・学習状況調査や標準学力調査などの結果分析に基づき、学力向上プランの改善を図り、学力向上に努める。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	新型コロナウイルス感染症の影響により全国学力・学習状況調査(4月)は中止となったが、国から提供された問題を活用し、各校において独自に調査を実施し、授業改善等に役立てた。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	各校で自己採点し、授業改善に生かすことができるよう研修を実施した。					
令和3年度事業の課題・改善点	各種調査実施後の分析をもとに課題を洗い出す。その課題から授業の具体を探り(この課題はどのような授業から生まれたのか)、授業改善を行う。個に焦点を当て、児童生徒個々の課題を次年度へ確実に引き継ぎ学力向上プランの作成にも反映させることで継続的な課題の解決に努める。					

事務事業	指導体制の充実及び指導方法の工夫改善					
事務事業概要	少人数指導等によるきめ細かな指導体制及び授業技術・指導方法の向上を目指した授業研究や授業評価の研修の充実を図る。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	少人数加配教員として、小・中における提案型、小中連携型、格差解消型、小学校専科(英語以外)、学力向上支援員等をのべ17校に配置し活用した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	新学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての研修を充実させることができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	特に小中連携の視点を踏まえ、小学校専科(英語以外)の活用に合わせて、教科担任制の実施に努める。					

事務事業	総合的な学習の時間の充実					
事務事業概要	総合的な学習の時間等では教科の学習で身につけた知識や技能を活用する探究活動の場を工夫する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	学校司書を市内全小学校に派遣し、児童生徒への学校図書館の利用指導、読書指導、読み聞かせ、新刊図書の紹介等掲示物の作成、図書だよりの発行、貸し出し、返却指導等を行った。さらには、学校司書が授業に参画し、調べ学習の支援を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	学校図書館を利用した授業が増加している。その際、学校司書が児童生徒の学習課題に即した図書を紹介することができている。					
令和3年度事業の課題・改善点	各校において地域課題等を踏まえた探求課題を設定することで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。					

事務事業	学習習慣の確立					
事務事業概要	学校だよりや学級だより等によって、学力向上や家庭学習の充実に関する積極的な情報提供を行うとともに、学校や放課後子ども教室での諸活動に地域の方々の参画を募り、学校・家庭・地域が一体となった取組を進めることによって、望ましい学習習慣を確立する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	学校だより等で児童生徒の学習状況について周知し、家庭学習の充実について涵養を図った。また、夏季休業中や放課後は、地域の方による学習支援を実施した。 全小中学校に一人一台タブレットを先行導入し、ドリルアプリ等を活用した学習習慣の定着を促進した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	学校運営協議会や地域の回覧等による積極的な情報提供により、家庭・地域と連携した取り組みが進んでいる。					
令和3年度事業の課題・改善点	コミュニティ・スクールの機能を生かし、引き続き学習保障の場への地域の方の協力を得る。また、授業者は、児童生徒が授業内容と関連した家庭学習を自律的に行えるよう、学習の仕方や生活習慣等を継続的に丁寧に教えていく必要がある。また、学習習慣の定着に向けたICTのさらなる活用を推進する。					

(3) 特別支援教育の充実

事務事業	支援体制の充実					
事務事業概要	学校支援員の配置や特別支援教育推進員の配置、幼児通級指導教室指導員の増員など、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する校内支援体制を充実する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	<p>15小学校に50人、7中学校に8人の学校支援員を配置し、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する学習支援、健康や安全の確保、運動会や校外活動等の学校行事における支援を行った。</p> <p>幼児通級指導教室については、佐波小幼児通級では57人、華浦小幼児通級では39人の指導を行った。また、中関小学校に幼児通級指導教室が新設され18人を指導した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	<p>配置された学校支援員は、学校・学級の安定化に大きく寄与しており、児童生徒が安心して学校生活を送ることにつながっている。</p> <p>また、幼児通級指導教室での個別指導により、就学前の児童の状況が好転しており、保護者との連携も強くなっている。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数や実態から、支援員の増員が強く望まれている。また、中学校通級の増設が求められている。					

事務事業	指導方法の工夫改善					
事務事業概要	幼保・小・中学校の相互連携により児童生徒への理解を深め、児童生徒の個に応じた指導方法の工夫・改善を図る。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	<p>幼稚園や保育園(所)の職員と小学校1年生担任等が協議できる幼保・小連携教育研修会を実施した。また、職員同士の連絡会や授業参観、子ども同士の交流が各小学校単位で年間を通じて1回以上実施された。</p> <p>小・中学校においても、生徒指導主任会を合同で実施したり、各中学校区単位で年間1回は連携を目的とした合同研修会を実施した。</p>					

	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
評価	<p>連携教育研修会により、幼保・小のつながりを互いの立場から見直すことができた。また連絡会等が年間1回は必ず実施され、幼児・児童の実態を把握するとともに、互いの指導方法のよさを知ることができた。</p> <p>特別な教育的支援を必要とする幼児・児童についてお互いの授業参観等の機会をもつことで情報の共有ができた。</p> <p>小・中学校の生徒指導上の課題を共有し、互いの校種の特性に応じた効果的な指導方法を取り入れた実践につなげることができた。</p>				
令和3年度事業の課題・改善点	<p>県作成の「つながる子どもの育ち」をもとに各小学校及び各幼稚園・保育園（所）でのスタートカリキュラムやアプローチカリキュラムを充実させる必要がある。</p> <p>連携教育研修会での共通理解を踏まえた指導を組織的に行うよう、指導する必要がある。</p> <p>幼稚園・保育園・保育所等に研修会等の機会を活用し、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成の必要性等について、周知を図る。</p>				

事務事業	関係機関との連携による教育支援				
事務事業概要	就学支援のために園や学校への訪問を実施するとともに、防府市教育支援委員会を開催し、教育支援を推進する。				
令和2年度の主な取組（具体的に）	障害のある児童生徒、また、障害の可能性のある児童生徒に対して、必要な教育支援を講ずるために、市内の特別支援学級設置校の校長、担任教員などを委員とする防府市教育支援委員会を設置し、必要となる調査・検査・診断に基づいた教育支援を行った。				
	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
評価	<p>就学先の決定は教育委員会の責任で行なわれるべきものであり、障害のある児童生徒の就学に関しては、教育支援委員会において、専門的な立場から障害の種類、程度等を勘案して個に応じた教育支援を行った。</p>				
令和3年度事業の課題・改善点	<p>関係機関との連携による教育支援体制のより一層の充実を図り、特別な配慮の必要な児童生徒に対して、個別の教育支援計画や指導の計画を活用し、適切な指導・支援を行う。</p>				

(4) 社会の変化に対応した教育の充実

事務事業	コミュニケーション能力を育む教育の推進					
事務事業概要	小・中学校へALTを派遣し、外国語に慣れ親しむことで、コミュニケーション能力の素地や基礎を養う。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	JETプログラムによるALT7人を小中学校に派遣した。小学校では外国語活動・外国語科を中心に、また中学校では全学年の英語の指導補助やレッスンプラン作成等の教材研究補助を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	ALTの派遣により、言語や文化に対して体験的に理解すること、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと、外国語の音声や基本的な表現に触れ、活用する場面を設定することができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	市内全小・中学校で、ALTを効果的に活用した英語教育についての研究開発を促進し、児童生徒の英語学習に対する意欲の向上や英語によるコミュニケーションの向上を図る。					

事務事業	情報教育の充実					
事務事業概要	情報収集・活用・発信に関する基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	ICT機器やロボット等を活用し、教科横断的にプログラミング教育を推進した。 一人一台タブレットを先行導入し、ICTを活用した教育活動の推進に向けて、プロジェクトチーム(DASH)の立ち上げを行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	プログラミング教育に関する研修会に参加した教員からの復伝により、防府市全体での推進を図った。					
令和3年度事業の課題・改善点	今後も情報モラルについては、実効的な研修会の実施が望まれる。スマートフォンに関するトラブルから児童生徒を守るためには、学校教育だけでなく、市全体で保護者への啓発を図っていく必要がある。					

事務事業	環境教育の充実					
事務事業概要	「こども環境白書～防府版～」を活用し、環境保全やよりよい環境の創造のために、主体的に行動する実践的な態度、能力等を育成する。					

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	地球温暖化問題の主要因である二酸化炭素の排出量削減を身近な生活の中で実践するなど、子どもたちの環境意識の醸成を図った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	「こどもエコ絵画コンクール」の作品応募や、「エコピアの森」活動への参加の周知に努めた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒が主体的に環境問題に関わろうとする態度と意識の高揚に向けて、学校や地域の実情に応じた具体的な体験活動の場を増やすため、総合的な学習の時間や各教科の枠を越えた教育課程への位置づけが更に必要である。地域人材や専門家の教育活動への参加も視野に入りたい。					

事務事業	ICT機器の活用					
事務事業概要	各教科や総合的な学習の時間などあらゆる授業でICT機器を積極的かつ適切に活用し、児童生徒にとって分かりやすい学習を推進する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	授業でのICT（タブレット端末、電子黒板等）の活用について研究を継続している。また、夏休みや学期中の放課後を利用して、教員向けの研修会を開催した。 一人一台タブレットを先行導入し、ICTを活用した教育活動の推進に向けて、プロジェクトチーム（DASH）の立ち上げを行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	タブレット端末や授業支援ソフト、アプリケーションの活用について、実効的な研究が進み、情報を共有することができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	今後、市内の学校に研究成果を広げていくためには、予算措置と教育総務課やデジタル推進課との連携が必要であり、加えて、タブレット端末の活用を促進していくために、引き続き、研究プロジェクトにおいて研究、普及を進めていく必要がある。					

事務事業	教職員の働き方改革					
事務事業概要	部活動指導員を配置し、部活動の指導体制の充実を促進するとともに、部活動を担当する教職員の負担軽減を図る。					

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	12名の部活動指導員を中学校5校に配置した。部活動指導員配置部の部活動顧問の時間外在校等時間は前年度比6.7%減少した。また高い指導力を持った指導員が指導法の教授や練習内容の提案を行うことで、指導経験の少ない顧問の良い研修の機会となった。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	時間外在校等時間を、平成28年度比30%削減を成果目標としたが、消毒作業等コロナ対応が入り、時間外在校等時間は2.2%減に留まった。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	本事業開始初年度との比較をするため、平成30年度を基準とし、時間外在校時間等の10%の削減を目指す。配置校において状況調査を実施し、成果目標に対する到達状況の把握に努める。新規指導員の登録者数を増やすため、市広報やHPを活用した広報活動に努める。					

(5) 心の教育の充実

事務事業	道徳教育の充実					
事務事業概要	児童生徒の実態を踏まえ、道徳の教科化を踏まえた各学校の道徳教育全体計画や具体的な指導計画の見直し、改善を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	道徳の教科化に伴い、新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業をするよう、研修会等で指導助言を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業改善が進んできた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	道徳の教科化に伴い、新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業改善及び年間計画等の整備をさらに充実していく必要がある。					

事務事業	人権教育の充実					
事務事業概要	小・中学校人権教育主任研修会の開催や実践事例を中心とした研究成果を防府市教職員研究紹介で周知するなど、人権教育の充実を図る。					

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>県や市主催の人権教育研修会へ積極的な参加を促した。</p> <p>防府市教職員研究紹介に、防府市内小・中学校での人権教育の取組事例や研究成果・課題等をまとめたものを掲載し、各小・中学校へ配付することができた。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	<p>多くの教職員に対して、県や市人権教育施策の浸透を図ることができた。各校における具体的な取組事例を掲載することで、他校の取組を参考に自校の人権教育の取組を検証・改善するための情報を提供することができた。</p>					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>「山口県人権推進指針」にある分野別課題（小：11、中：12）を各学校(特に中学校)の人権教育全体計画及び人権教育年間計画に反映させる。</p>					

事務事業	伝統や文化に関する教育の充実					
事務事業概要	防府市中学校文化連盟への支援や関係部署との連携による学校支援を行うことにより、伝統や文化に関する教育の充実を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	防府市中学校文化連盟主催の総合祭の支援を検討していたが、中止となった。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	<p>防府市内の各中学校の文化活動を広く防府市民に紹介するとともに、各校文化活動の発表及び防府市内各中学校の文化活動を行っている生徒の交流の場をもつことができなかった。</p>					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	防府市中学校文化連盟への支援を行うことにより、伝統や文化に関する教育の充実を図る。					

(6) 生徒指導・相談体制の充実

事務事業	積極的な生徒指導の推進
事務事業概要	小・中合同生徒指導主任研修会や小・中合同教育相談担当者研修会などの開催により、緻密な情報連携に基づいた生徒指導体制づくりに努める。

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	生徒指導主任研修会、教育相談担当者研修会を開催し、生徒指導における現状と課題を認識した上で、指導方針の明確化や開発的生徒指導についての共通理解を図った。また、いじめや暴力行為などの早期発見、早期対応のための情報提供が、各校におけるより効果的な生徒指導体制づくりに繋がった。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	4	3
	生徒指導主任や教育相談担当者に対して、具体的な成功事例等を示すことによってスクールカウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーの活用と外部機関との連携について周知することができた。その結果、いじめや暴力行為、不登校などの未然防止、早期発見・早期対応のためのより積極的な取組がみられるようになった。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒の問題行動は依然増加する傾向にあり、早い段階での関係機関との連携が今まで以上に必要になってくる。家庭と学校の連携を基盤とし、小・中連携や地域・関係機関と学校が連携した生徒指導体制のさらなる強化が求められる。					

事務事業	学校内外と連携した問題行動への対応					
事務事業概要	サポートチーム等、関係機関との情報・行動連携の強化を図り、生徒指導上の諸問題に迅速・適確に対応する。また、生活・安心相談員による訪問支援を行う。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	不登校やいじめの問題、暴力行為、虐待などの養育問題等、生徒指導に係る諸問題についての解決策等を協議するとともに、状況に応じて関係機関の連携による適切な対応を図るために、「防府市生徒指導問題対策協議会」及び「防府市いじめ問題対策協議会」を設置し、問題行動への対応方法及び防止のための活動を行った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	必要に応じてサポートチーム会議を開催することで、児童虐待や不登校、いじめ、暴力行為などの諸問題の未然防止や早期対応が図られた。また社会福祉士や臨床心理士の介入により、好転したケースもあった。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	子どもの教育に対する関心が低かったり養育への姿勢が感じられなかったりする保護者が増えつつあり、学校が対応に苦慮するケースが多くなっている。今まで以上に関係機関と連携した保護者支援等、早期に対応する必要がある。					

事務事業	きめ細かな不登校対策の推進					
事務事業概要	教育支援センター「オアシス教室」専任指導員及び在宅生徒学習指導員並びに、生活・安心相談員が各学校の不登校対策の支援を行う。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	市の非常勤職員として専任指導員を3名雇用し、不登校児童生徒に対する学習指導を中心に支援を行った。また、不登校やいじめ等の学校教育に関する相談が増加傾向にあり、電話相談だけでなく、学校への助言や家庭への支援を行う生活・安心相談員を1名配置して、課題の早期発見ならびに予防を行うなど、きめ細かな対応を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	異なる課題を抱える不登校児童生徒にとって、学力の保障、人間関係の再構築等、学校復帰を目的とした本事業の担っている役割は非常に大きい。「オアシス教室」への通室を転機に学校復帰や社会的自立に向かっていく児童生徒が増えている。更なる教育支援センターの機能の拡充が望まれる。また生活・安心相談員による保護者への助言や支援、学校への助言は、確実に効果が見られた。					
令和3年度事業の課題・改善点	専任指導員や在宅生徒学習指導員、生活・安心相談員が、様々なケースに丁寧に、また連携して対応しているが、不登校児童生徒数は増加傾向にあるため、保護者への助言や学校への支援等、今後より一層きめ細かな支援体制の充実が求められる。					

事務事業	緊急時等の学校への支援体制の充実					
事務事業概要	学校だけでは解決が困難な問題行動等の発生時や事件・事故等による児童生徒の精神的動揺が激しい場合に、専門家や専門家チームを学校に派遣し、児童生徒の安全確保や心のケア、学校への助言・支援を行う体制の充実に努める。 重篤ないじめ問題等の解決に向けたいじめ調査委員会（第三者機関）の設置及び支援体制の整備に努める。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	「防府市生徒指導問題対策協議会」及び「防府市いじめ問題対策協議会」を設置し、問題行動への対応方法及び防止に向け、関係機関との連携に努めた。困難な事案については、児童生徒・家庭の状況に応じ、学校・教育委員会及び関係機関が連携して「緊急サポートチーム」を編成して対応する。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	いじめの早期発見により解消した事案も多く見られた。その結果重大事態の発生件数は0件であった。重大事態の発生に備えて関係機関との連携強化を図ることもできた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒の問題行動等について、早期の情報共有や、学校・専門家が連携対応できる体制を整え、組織的に対応する必要がある。					

(7) キャリア教育の推進

事務事業	進路指導の充実					
事務事業概要	キャリア教育全体計画に基づき、職場見学や職場体験学習を、児童生徒の発達段階に応じて組織的・計画的に実施することによって、勤労観・職業観の育成を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	職場見学や職場体験学習の実施校は小学校で12校、中学校4校である。また、全ての小・中学校でキャリア教育全体計画を作成しており、基礎的・汎用的能力の育成をめざし、キャリア教育に系統的・計画的に実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	早い段階から、将来の夢の実現を目指して、系統的にキャリア教育に取り組むことにより、個に応じた進路選択が可能となり、キャリアプランニング能力を高めることができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	ほとんどの生徒が自分にあった進路選択をすることができているが、進路未定のまま卒業した生徒もいる。全員が目標を定め、納得のいく進路に進むことができるよう、進路決定が危ぶまれる生徒に対して早い段階から相談を行う等、よりきめ細かなキャリア教育を推進していく必要がある。					

事務事業	系統的・計画的な取組の推進					
事務事業概要	9年間を見通したキャリアデザインを発達段階に応じて描きながら、小中連携を図るためにキャリアパスポートの作成を推進する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	市内共通のキャリアパスポート「夢ノート」を作成し、活用の仕方を各校で検討して実施した。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	中学校区で協議を重ね、キャリアパスポートの効果的な活用法について見通しを持つことができた。また、児童生徒の発達段階に応じて、「自分」の成長を見つめなおす場面を設定することができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志をはぐくむことができるように、小・中・高等学校等の全職員がキャリア教育について共通理解を図り、連携強化を目指す。					

事務事業	実践的・体験的な学習活動の推進					
事務事業概要	商工会議所・職場体験学習受入事業所等との連携協力体制を構築し、社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	市内の中学校4校と小学校12校の計16校が職場見学や職場体験学習を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	職業観や勤労観の育成の一環として、防府市内の中学校は例年職場体験学習を実施しているが、コロナ禍のため実施校が少なかった。小学校においては、社会見学等を活用して職場訪問を取り入れるなどして対応している。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	職業観や勤労観の更なる育成を図る。また、職場見学・職場体験等の実施状況の把握に努め、商工会議所や、やまぐち教育応援団の協力も得ながら、市内外の各事業所におけるさらなる職業体験学習の充実を図る。					

事務事業	小・中学校の連携及び家庭・地域との連携強化					
事務事業概要	コミュニティ・スクールを推進するために、地域連携教育アドバイザーが、「学校運営・学校支援・地域貢献」の充実に向けた取組への支援等を行う。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	学校運営協議会では、地域連携教育アドバイザーが学校支援と地域貢献等を中心とした地域連携のあり方について助言をした。学校・家庭・地域の三者の連携方法について見識を深めることによって、「開かれた学校づくり」の推進を図った。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	3	4	3	4
	地域連携アドバイザーの配置により、各学校の学校運営協議会へのきめ細かな支援がされた。また、研修会等を通して、学校関係者や保護者に対して、コミュニティ・スクールへの理解が進み、学校支援ボランティア等、地域の方々による学校への支援体制が推進された。					
令和3年度事業の課題・改善点	よりよい地域や社会を創造しようとする子供たちを育てるためには、学校と地域が目標やビジョンを共有したうえで、熟議を行うことが大切である。今後も引き続き地域連携アドバイザーによる助言や研修会等を実施する。					

事務事業	志を抱かせる教育の推進					
事務事業概要	小学校では1/2成人式、中学校では立志式を行うなど、自分自身を見つめ直し、将来に向けての目標を考える機会を設定し、志を抱かせる教育活動を推進する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	市内の中学校11校と小学校の17校の計28校が実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	14	4	4	3	3
	小学校4年生と中学校2年生で、自分自身の生活を振り返り、新たな目標を考える、よい機会となっている。 また、保護者の前で発表する形式に加え、登山後山頂で発表する形式を取り入れる等、コロナ禍における様々な工夫を通して将来に向けての目標を保護者が確認できる機会となり、家庭におけるキャリア教育の推進にも成果をあげている。					
令和3年度事業の課題・改善点	全ての小学校で1/2成人式、中学校で立志式を実施しているが、児童生徒にとって自分自身の志について、より深く考えられる機会となるよう、学校運営協議会委員や地域の方等を交え、地域と連携した1/2成人式・立志式を実施する。					

(8) 健康教育の推進

事務事業	体力向上のための望ましい運動習慣の定着					
事務事業概要	体力テストの分析結果に基づき、体力向上プランの改善を図り、児童生徒の体力向上に努める。					

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	児童生徒の体力に関する課題の把握及び解決に向けて、小・中学校において新体力テストを実施し、各校独自の1校1取組を実施した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	成長期にある児童生徒の体力向上には時間がかかり、各校の継続した取組が必要である。特に、コロナ禍で運動機会が減り、体力低下が懸念されている。各校で新体力テストの結果を元に、課題を明確にし、課題の克服に向けて取り組んでいるところである。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	新体力テストの結果から、各校の児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた体力向上プログラムを作成し、計画的・継続的に実施する。また、子どもの側に立った体育・保健体育授業づくりや、新体力テストに向けた目標のたたせ方など、工夫改善をしていく。					

事務事業	健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実					
事務事業概要	体力テストの分析結果を市役所ホームページにアップするなどして、家庭・地域・関係機関との連携を強化し、指導の充実を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	今年度コロナ禍により新体力テストの全校実施ができなかったため、本市の体力の現状について体力向上だよりを作成し、周知した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	コロナ禍のため家庭・地域の連携は十分に行えなかったが、指導者等を活用して体力の課題のある項目についての研修を行う学校も見られた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	健康な生活を送るためには、体力だけでなく心の健康の保持増進を図る必要があるため、今年度は学校保健計画を見直し、校内推進体制の充実を図る。					

事務事業	食に関する指導の充実					
事務事業概要	食に関して、全体計画を踏まえた指導の充実に努めるとともに、家庭や地域との連携により、望ましい食生活の充実を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	栄養教諭など学校給食に携わる職員は、県、市主催の研修会に積極的に参加し、授業公開や研究協議を行い、資質向上を図った。そして各校で望ましい食生活のあり方などについて児童生徒へ指導した。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	食育に関する企画や冊子等を各校に紹介し、児童生徒への指導の充実を図った。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	今後も引き続き、食育に関する企画を取り入れ、児童生徒の食育への関心を高めたり、栄養教諭による訪問指導や食育担当者の研修会を実施し、研修成果を各校に還元したりして、食育の充実を図る必要がある。					

(9) 安全教育の推進

事務事業	児童生徒の危機予測・回避能力の向上					
事務事業概要	警察と連携した交通安全教室や火災・自然災害・不審者対応訓練など、学校安全計画に基づいた安全指導を推進する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>防府警察署や安全協会との連携による交通教室を、新一年生を対象に実施した。</p> <p>警察と連携して少年安全サポーターを配置し、巡回訪問や要請があった場合に学校を訪問するなど、学校安全体制の整備を支援した。</p> <p>また、学校への不審者の侵入や登下校時において不審者に遭遇した場合の安全確保のため、各小・中学校で実施している不審者対応訓練に少年安全サポーターとスクールガードリーダーが参加し、指導助言を行った。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>学校独自の交通教室を含め、新入学児対象の交通教室を関係機関と連携して実施することができ、就学時の交通安全指導の充実を図ることができた。</p> <p>少年安全サポーターは、不審者などの情報への対応も迅速かつ確実であり、小・中学校の安全体制確立を積極的に支援できており、学校安全体制に大きく寄与している。また、スクールガードリーダーも各小・中学校で実施されている不審者対応訓練において、これまでの経験と専門性を生かした指導助言で大きな成果をあげた。</p>					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	不審者等が増加傾向にあることから、各学校での日常の取組を充実させ、さらに児童生徒の自己管理能力と危機管理能力を向上させていくことが重要である。また、円滑な警察等の関係機関はもとより、家庭・地域との連携を深める必要がある。					

事務事業	機能する危機管理体制の確立					
事務事業概要	各種安全教育研修会への参加促進など、教職員の危機管理能力の向上を図るとともに防府市メールサービスの活用促進等により危機管理体制の確立を図る。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	県や市が主催する各種安全教育研修会へ教職員が積極的に参加した。 市内全ての小・中学校で学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムが整備されている。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	各種危機管理研修会へ参加した教職員の復命内容が各学校の危機管理体制の構築・改善に生かされている。また、学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムの整備によって、緊急時への対応体制が整備できた。					
令和3年度事業の課題・改善点	学校の危機管理マニュアル等の見直しを図るとともに、防犯研修会や様々な災害を想定した防災危機管理研修会への参加等、様々な安全教育研修会への参加を継続的に促進していく必要がある。					

事務事業	地域・家庭と連携した学校安全体制の整備					
事務事業概要	地域の関係団体や保護者との連携の強化による見守り活動等の充実や各地域におけるスクールガード組織の運営への積極的な支援を図る。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	各校のスクールガード組織の再構築、及びみまもり隊との緊急連絡体制の確認を行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	地域のスクールガードが主体的に見守り活動に取り組み、子どもたちの安全な登下校が確保された。					
令和3年度事業の課題・改善点	今後も、継続的な地域の関係団体や保護者との連携による、学校安全体制のより一層の整備が求められる。また、未然に事件事故を防ぐために地域・保護者・みまもり隊の意見を取り入れながら、学校安全に関する指導内容を具体的に作成しなければならない。					

事務事業	防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実					
事務事業概要	地域の自然災害の特徴や児童生徒の発達段階に応じた防災教育を促進し、「防災対応能力」の向上を図る。また、災害安全に関する組織活動ができるよう、保護者や地域住民、地域の関係機関・団体等との密接な連携を図る。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	各学校において地震や津波、豪雨災害等の自然災害や火災を想定した避難訓練が実施されている。また、地域と合同で訓練を行う学校も増えてきた。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	色々な災害を想定した避難訓練を実施し、危機管理マニュアルや教育環境の整備・改善に取り組んでいる。地域と合同の訓練を実施したり、各関係機関と連携したりすることで、学校が核となって地域全体の防災意識も高まってきた。					
令和3年度事業の課題・改善点	基本的な訓練を定期的に行うことはできているが、様々な時間や状況を想定した実践的な訓練については十分とは言えない。しかし、地域と連携した訓練が増えてきつつある。これからもコミュニティ・スクールの機能を生かしながら、地域と連携したより実践的な訓練の実施がについて協議していく。					

(10) 校種間連携・小中一貫教育の推進

事務事業	幼保・小・中・高の校種間の連携強化					
事務事業概要	幼保・小・中・高の校種間の連携を強化することにより、円滑な接続やつまずきの予防に努める。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	幼保・小連携教育研修会等の機会を利用し、小1プロブレム解消のための情報交換の必要性について理解を深めた。中1ギャップへの対策として、中学校教員による小学校への出前授業、小学生の中学校体験入学などなめらかな接続のための工夫をした。 中・高の連携を図るため、学校相互の授業参観等を行い、相互の情報交換の場を設けた。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	幼保・小・中・高の校種間の連携を強化し、円滑な接続に努めた。					
令和3年度事業の課題・改善点	今後も継続して、幼保・小・中・高の連携を図るための機会をもつとともに、小中高英語教育連携事業を好機として、情報交換に努め、具体的な取組について協議していく。					

事務事業	小・中学校9年間を見通した小中一貫教育の推進					
事務事業概要	9年間を見通した教育課程の編成や、小・中学校共通の指導事項を設定することにより、発達段階に応じた、きめ細かい教育を推進する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	小・中学校の合同研修会等の機会を通して、児童生徒の姿をもとにした共通指導事項を整理し、共通実践した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	小・中学校の合同研修会で、学び直しの観点から指導事項の重なりを共通理解した。その上で、9年間を見通した共通の指導事項を発達段階に応じて設定し、中学校教員がその専門性を生かした授業を小学校で実践した。					
令和3年度事業の課題・改善点	中学校教員による小学校への乗り入れ授業を通して得た研究成果を広く市内小・中学校に波及させることで、小・中学校間のギャップを減らし、より充実した教育活動を推進する必要がある。					

◎ 地域ぐるみの教育の推進

(1) 青少年の健全育成

事務事業	家庭教育機能の強化					
事務事業概要	生徒指導総合研修会等を通じた保護者への啓発活動を行う。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	コロナウイルス感染症対策のため実施していない。 保護者には学校だよりや学校運営協議会等により、家庭教育の重要性について周知した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	学校から山口県地域連携教育推進室作成のリーフレットの「夢をはぐくむ家庭の元気」を配布し、家庭教育のポイントを保護者に意識づけることができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	家庭教育機能の強化における取組は学校・家庭・地域が連携して取り組むことが大切であるため、生涯学習の一環として今後も取り組んでいく。					

事務事業	非行防止・環境浄化活動					
事務事業概要	防府警察署や民生児童委員等の巡回パトロール等を実施する。					
令和2年度の主な取組 (具体的に)	市内小・中学校の生徒指導主任を中心に長期休業や休日に校区内を巡回した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	小・中学校の教員が一緒になって巡回することで、校区の状況を確認し、共通理解を図ることができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	今後とも必要に応じて、地域の青少年育成連絡協議会や生涯学習課と協力して実施していく。					

事務事業	青少年活動の推進					
事務事業概要	休日を利用した児童生徒による地域行事やボランティア活動への積極的な参加を奨励する。					
令和2年度の主な取組 (具体的に)	児童生徒が休日を利用し、地域清掃や公民館まつり、幸せますウィーク等の地域行事やボランティア活動に積極的に参加した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	コミュニティ・スクールの機能をもとに、積極的に地域貢献することができた。活動を支援する地域の方の協力を得ることができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	公民館を核とした地域協育ネットを推進するため、公民館の社会教育指導員及び生涯学習課と連携して、地域貢献の取組みを進めていく。					

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

事務事業	コミュニティ・スクールの円滑な運営					
事務事業概要	コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携の強化を図る。					
令和2年度の主な取組 (具体的に)	令和2年度はコロナ禍のため、保護者や地域住民等が学校に来る機会が減少した。					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	2	3	3	4
	各学校では、コロナ禍でもできる保護者や地域住民との連携を模索し、工夫して取り組んでいた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携の強化を図るため、今後は新しい地域連携の実施方法を考えていく必要がある。					

事務事業	地域協育ネットの推進					
事務事業概要	各中学校区における学校・家庭・地域が協働するネットワークづくりを推進する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	「ふるさとを愛する心の育成&ふるさとを担う人材育成カリキュラム」の見直しを図るとともに、学校地域連携カリキュラムを各校で作成した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	各校及び各地域ネットにおける年間計画が完成したことで、学校・家庭・地域が協働して何ができるのかが明確になった。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	「防府まるごと学校のつどい」などの会議に学校が主体的に参加するように働きかけ、学校・家庭・地域のネットワークづくりに努める。					

◎ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

(1) 安全・安心な施設整備、教育環境の確保

事務事業	学校教材の整備					
事務事業概要	理科備品やICT機器などを整備し、適正な運用管理を行う。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	学校教育環境の充実を図ることを目的として、学習生活に必要な教材備品や新規に開設する特別支援学級の備品、年次計画に基づいたピアノの購入など、学校の教材備品、教材用品を整備した。また、一人一台タブレットを先行導入した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	小・中学校に計画的な学校教材の整備を行うことができた。					

令和3年度 事業の課題・ 改善点	小・中学校で使用する教材備品、教材用品の整備は、教育の質の向上のために不可欠であり、更に充実していく必要がある。今後も学校と協議し、さらに計画的な整備を行う。
------------------------	---

(2) 教育機会の確保

事務事業	経済的支援の充実					
事務事業概要	就学援助費を給付する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>「幼児教育の無償化」に伴い、保護者の所得によらず、月額25,700円を上限に補助を行った。</p> <p>また、小・中学校への就学に係る経済的な負担の軽減を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学援助費として学用品費・通学用品費、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費等の補助を行った。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	私立幼稚園・小・中学校に就園・就学する児童生徒の保護者に、経済的な支援を行い、負担軽減を図ることができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	教育の機会均等の趣旨にのっとり、経済的な負担を抱えている保護者に対して今後も継続して必要な支援を行うとともに、より広く周知ができるよう努める。					

事務事業	私立高等学校への支援					
事務事業概要	私立高等学校の地域活動費などを補助する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	私立高等学校の振興充実を図るため、高等学校を設置する学校法人に対し、当該高等学校の地域活動及び学校活動事業について、補助金を交付した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	市内私立高等学校2校に対し、市内に在住する生徒の人数などに応じ、当該高等学校の地域活動及び学校活動の補助を行うことができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	私立高等学校の振興充実のため、今後も継続して必要な支援を行う。					

事務事業	地理的条件の解消					
事務事業概要	野島小・中学校への渡船通学費用を補助する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	野島小・中学校で実施する「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒の渡船費用の半額及び小規模特認校制度により富海小・中学校及び向島小学校へ公共交通機関で通学する児童生徒の公共交通機関での通学に要する費用の半額を補助した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
	「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒13人の保護者へ通学費の補助を行った。また、小規模特認校に指定された富海小・中学校へ公共交通機関により通学する児童生徒9人及び向島小学校へ公共交通機関により通学する児童1人の保護者に対し、通学費の補助を行った。					
令和3年度事業の課題・改善点	野島の教育条件の特性を生かした特色ある教育活動を推進する「茜島シーサイドスクール」事業の推進や島の活性化、また、小規模特認校に指定する富海小・中学校または向島小学校へ通学する児童生徒の保護者負担軽減のため、今後も継続して必要な支援を行う。					

事務事業	教育支援の充実					
事務事業概要	さまざまな障害や病気を抱えている児童生徒に対して、個別の支援体制や教育機会を確保するとともに、家庭の経済状況などの課題を抱えている家庭に対する家庭教育支援や不登校などの問題を抱えている児童生徒に対する学習支援を充実する。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	障害のある児童生徒、また、障害の可能性のある児童生徒に対しては、教育支援委員会による適切な教育支援を行った。また、就学援助費補助金等により経済的な援助を行うとともに、生活・安心相談員による教育相談、不登校児童生徒に対しては、在宅生徒学習指導員による指導、教育支援センター「オアシス教室」による通室指導を実施し、学習支援に努めた。					

評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	4
	<p>障害のある児童生徒の就学に関しては、教育支援委員会において、適正な審議・判定がなされた。</p> <p>小・中学校に就学する児童生徒の保護者に、就学援助費補助金等による支援を行い、負担軽減を図ることができた。</p> <p>また、オアシス教室への通室や在宅生徒学習指導員との学習を希望する児童生徒も増加しており、更なる教育支援センターの機能の拡充が望まれる。生活・安心相談員による学校への助言や家庭への支援は効果が見られた。</p>				
令和3年度事業の課題・改善点	<p>関係機関との連携を強化することにより個に応じた教育支援体制の充実を図る。また、教育的支援の必要な児童生徒・保護者に対しては、学校と連携し継続してふさわしい支援を行う。</p>				

(3) 学校図書館の充実と読書活動の推進

事務事業	読書・学習活動の充実				
事務事業概要	<p>学校図書館の一層の活用を促進し、児童生徒の資料・情報活用能力の向上を図る。また、全校一斉読書の継続・拡充を奨励するとともに、家庭への啓発活動の充実を図り、児童生徒に読書習慣を定着させるよう努める。</p>				
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>小・中学校ともに朝読書等の全校一斉読書の取組みを実施している。読書や本の貸出だけでなく、各教科や総合的な学習の時間における調べ学習等でも学校図書館を利用することを推進している。</p>				
評 価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3
	<p>小・中学校ともに調べ学習等で学校図書館を利用する学校が増えている。令和2年度は、令和元年度より本の貸出冊数も増加している。</p>				
令和3年度事業の課題・改善点	<p>今後も継続して児童生徒の資料・情報活用能力の向上や読書習慣の定着に向けた支援を行う。</p>				

(4) 安全・安心な学校給食の推進

事務事業	食育の推進
事務事業概要	<p>栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育を推進し、食に関する指導の充実を図る。</p>

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	給食物資については、地場産食材を活用し、郷土料理・季節毎の行事食などを献立に取り入れた。また、毎月、食に関する指導などを掲載した給食だよりを保護者へ配布し、食育の推進を図った。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	3	4	4	4
	地場産食材については、JA等の情報を各学校に共有し、本市全体で利用率の向上を図った。学校における食育指導及び環境整備も計画的に行われている。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	食育の推進に向けて、栄養教諭・学校栄養職員の資質能力の向上を図る。					

事務事業	使用食材の安全性確保と地産地消の推進					
事務事業概要	地元生産者及び市場・卸業者等の情報収集を行い、使用食材の産地確認・生産履歴等、安全性の確保に努め、地場産食材の使用を推進する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	地場産食材の使用については、市場・卸業者等と連携を図り、学校給食県産食材利用拡大事業の県産100%メニューを年9回実施し、各学校等の献立の情報を共有した。 また、使用食材の産地・生産履歴を確認し、安全性の確保に努めた。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	地場産食材の使用については、市場・卸業者等の情報を各学校と共有し献立を工夫するなど、本市全体で利用率の向上に努めている。令和2年度の地場産食材(県内産)の利用率は69.8%であった。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	地場産食材については、天候に左右され価格面や必要数量の確保が困難になるなどの課題があるが、納入業者との連携を密にすることにより利用率の向上に努める。 食材の納品にあつては、産地・生産履歴の確認に加え、納入時には品質や鮮度等に問題がないか確認し、安全性の確保に努める。					

事務事業	食物アレルギーへの対応					
事務事業概要	食物アレルギーを有する児童生徒の保護者との面談により、情報の共有化を図るとともに、研究会を開催して、適切な対応に努める。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、研修会が実施できなかった。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	AA	15	3	4	4	4
	研修会は開催できなかったが、各校で情報の共有化が図られ、適切な対応が行われた。					
令和3年度事業の課題・改善点	エピペンを所持している児童生徒が増加していることから、今後よりいっそう食物アレルギーに関する理解の共有や対応力の強化に努める必要がある。					

事務事業	安全・安心な給食の提供					
事務事業概要	安全・安心な給食を提供するために、施設の整備に努める。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	10小学校と小野学校給食共同調理場及び防府市学校給食センターで実施している給食調理等一部業務委託を継続した。残りの5小学校は直営で実施した。 令和3年度からの給食調理等一部業務委託は、中関小学校・華城小学校・玉祖小学校については契約を更新し、勝間小学校については、新規に契約を締結した。 また、各小学校及び学校給食センターの施設整備を実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	業務委託校で実施している給食協議会で、学校や保護者からも安全・安心でおいしい給食の提供ができていると聞いている。					
令和3年度事業の課題・改善点	各学校の給食室や学校給食センターの設備等については、経年劣化が進んでいるため、計画的に更新する必要がある。					

<p>外部評価者の意見</p>	<p>全般に着実な成果をあげている。「児童生徒の実態に応じた指導計画の作成」については、昨年度よりも踏み込んだ記述がなされており、わかりやすい。特別支援教育の「支援体制の充実」は、前年度に改善点として捉えられていたことにきちんと対応されたことがわかる。いじめの早期発見に努めたことで、重大事態の発生件数が0件であったことは大いに評価できる。</p>
<p>外部評価者の意見</p>	<p>ICTの活用に対して、教員の皆さまの研修会等を行われ、研究・普及へのご尽力に感謝するとともに、スマートフォンに関するトラブルから児童生徒を守るための取組を保護者もしっかり考えていかなければと実感しています。</p> <p>学校教材の整備に関しては、中学校における理科の標本等しっかりチェックを行い、生徒がしっかり学べる環境を早急に整えられるよう期待したい。</p>
<p>外部評価者の意見</p>	<p>数多くの事業があるが、一定の実績を出すことができている。</p> <p>コロナ禍ではあるが、地域住民のさらなる参画と連携の強化に努力してほしい。</p> <p>部活動の指導体制の充実や教職員の負担軽減のため、部活動指導員の増加を望む。</p> <p>不登校対策の推進について効果はあったとあるが、もっときめ細やかな対応をお願いしたい。</p> <p>安全・安心な給食の提供は今後も望む。</p>

〔3〕生涯学習課

◎ 基本方針

地域活動に有効かつ機能的な体制づくりを行うとともに、市民・民間・行政が協働し一体となった社会教育活動の推進を図る。

◎地域ぐるみの教育の推進

(1) 青少年の健全育成

事務事業	家庭教育機能の強化				
事務事業概要	<p>青少年育成市民会議と連携し、「家庭の日」運動の普及、青少年育成センターによる青少年及び保護者に対応する相談機能の充実を図ることで、家庭教育力の向上を目指す。</p> <p>山口短期大学及び高等学校等と連携・協働し、文化福社会館等で「家庭の日」親子ふれあいイベントを実施する。</p> <p>地域の多様な人材を中心とした家庭教育支援チームの活動を拡充し、社会全体での家庭教育支援を図る。</p>				
令和2年度の主な取組 (具体的に)	<p>青少年育成市民会議において、「家庭の日」運動の普及を図るために以下の事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭の日」運動の推進のため、啓発用品を作成し、配布した。 ・広報誌やイベント等において啓発活動を実施した。 <p>山口短期大学等と連携し、「家庭の日」親子ふれあいイベントを開催した。(3回開催 ※7回開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響で4回中止)</p> <p>青少年相談活動については、青少年育成センターに設置している「ヤングテレホン防府」による電話相談や来所相談を実施しており、175件の相談を受けた。</p> <p>家庭教育支援チームとして、就学時健診時に小野小学校、富海小学校、勝間小学校において子育て学習会を開催した。また、例年実施している国府中学校での「子育てひろば」と「赤ちゃんとのふれあい体験」については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、実施できなかった。</p>				
評価	総合評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	4
	<p>関係機関及び関係団体との緊密な連携のもと、「家庭の日」運動の普及のための諸事業を実施することができた。</p> <p>「ヤングテレホン防府」の相談件数は、前年度比140件の増加であり、それぞれの相談について適切な助言をすることができた。</p> <p>家庭教育支援チームとして、3つの小学校での活動において、特に長子の保護者の悩み事や心配事を中心に活発な話し合いが行われ、保護者同士の繋がりを深める機会にできた。</p>				

令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>「家庭の日」運動の普及に関しては、今後も関係機関及び団体との連携と併せ、県とも協力し積極的な取組を推進していく必要がある。</p> <p>「ヤングテレホン防府」に関しては、今後も青少年や保護者に対して、各種広報誌等を利用し、更なる周知を図る必要がある。</p> <p>家庭教育支援チームの活動を拡充し、地域ぐるみで子育てを支える環境を構築していく必要がある。</p>
------------------------	--

事務事業	非行・問題行動の防止活動や環境浄化活動					
事務事業概要	青少年育成センターや関係機関・諸団体と連携し、防犯・巡視活動を推進する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>青少年育成センターにおいて巡視・補導活動を実施し、青少年の健全な保護育成に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭巡視活動 <p>青少年の非行防止のための補導活動を実施するため、16地域153名の補導員を委嘱した。</p> <p>青少年育成センター指導員による巡視活動や、各地区補導員による巡視・補導活動を延べ432回実施し、延べ1,182人が参加、30名を補導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども環境クリーンアップ活動 <p>有害図書類の設置状況、深夜営業施設及び携帯電話端末等の販売店の調査を実施し、青少年を取り巻く環境の浄化を図った。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	新型コロナウイルスの影響により、防府警察署との合同巡視が全て中止になるなどの規模縮小が見られたが、学校・警察・関係機関・諸団体と連携して巡視を行うことができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	補導員の巡視が非行防止のための抑止力になるよう、引き続き関係機関・団体との連携を強化し、青少年の保護育成に努める。					

事務事業	青少年活動の推進
事務事業概要	青少年の自主性や社会性を培うため、青少年団体が実施する事業への助成や様々な活動の支援を行う。

令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>青少年関係団体や子どもの体験活動を実施する以下の団体に助成を行った。</p> <p>防府市青少年育成市民会議、防府青年会議所、防府市子ども会育成連絡協議会、防府スカウト協議会、子どもの週末及び長期休業における体験活動等を実施する団体</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>青少年健全育成を促進するため、青少年関係団体の支援を行っているが、子どもの週末及び長期休業における体験活動等が行われていない地域がある。また、新型コロナウイルスの影響で、活動を予定していたものの、実施できなかった地域も見られた。</p>					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>継続した活動の支援とともに週末及び長期休業における体験活動を実施する団体のさらなる拡充を図る必要があるため、該当する団体等に対して制度の周知を図る。</p>					

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

事務事業	地域協育ネットの推進
事務事業概要	<p>各中学校区における学校・家庭・地域が協働するネットワーク(=ほうふ幸せますネット)を推進し、学習支援・環境整備・見守り活動などの学校等を拠点とした教育支援事業や小学校区における放課後子ども教室推進事業等の充実を図る。</p>
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>「地域協育ネット」のコーディネーターとして立場を明確にし、学校・家庭・地域の連携をさらに深めることができるように、各公民館の社会教育指導員を「地域学校協働活動推進員」に委嘱した。8月に学校教育課と連携して「地域連携担当者合同研修会」を実施し、各学校の地域連携担当者と地域学校協働活動推進員で各地域協育ネットの課題について協議した。例年2回実施している「防府まるごと学校のつどい」は文書開催とした。</p> <p>教育支援事業では、ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」の登録を推進し、活動保険の加入を行った。</p> <p>放課後子ども教室では、平成19年度から国・県の補助を受け、放課後の子どもの安全で健やかな居場所づくりを目的に各地区において、次のとおり実施している。</p> <p>平成19年度から：佐波放課後子ども教室、牟礼放課後子ども教室 平成20年度から：華城放課後子ども教室 平成21年度から：松崎放課後子ども教室 平成22年度から：中開放課後子ども教室</p>

	<p>平成23年度から：玉祖放課後子ども教室 平成24年度から：大道放課後子ども教室 平成25年度から：新田放課後子ども教室 平成26年度から：小野放課後子ども教室、右田放課後子ども教室 平成27年度から：勝間放課後子ども教室、西浦放課後子ども教室 平成28年度から：富海放課後子ども教室、向島放課後子ども教室 平成29年度から：華浦放課後子ども教室</p>												
評 価	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">総合評価</th> <th>到達度</th> <th>事業効果</th> <th>効率性</th> <th>方向性</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性	A	13	3	4	3	3
	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性							
	A	13	3	4	3	3							
<p>「地域学校協働活動推進員」を中心に、各地域の実態に応じた形態で「地域協育ネット」が開催され、学校・家庭・地域の間で情報が共有され、連携が強化された。</p> <p>ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」の積極的な活用方法について、学校運営協議会等で制度の周知を行った。</p> <p>放課後子ども教室については、市内全地区（新型コロナウイルスの影響で中止の判断をした地区及び野島地区を除く）で開講し、各教室の運営支援を行った。</p>													
令和3年度事業の課題・改善点	<p>「地域協育ネット」は地域によって温度差がある上、小学校が分かれる等の状況があるため、さらなる活性化のために継続した支援が必要である。また「防府まるごと学校のつどい」を通して、市内各地域の好事例の紹介や共通理解を図る必要がある。</p> <p>ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」は、活用方法を検討し、より多くの方に利用してもらえる工夫が必要である。</p> <p>放課後子ども教室は、開講後も事業の継続のためのきめ細かい行政支援が必要であるため、各教室運営委員会や開講式へ出席して実態を把握し、必要に応じて各教室との連絡調整を行う。また、各教室のコーディネーター同士の連携を図るため、情報交換会等を実施する。</p>												

◎一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

(1) 生涯学習機会の充実

事務事業	生涯学習情報発信の充実
事務事業概要	<p>市民の生涯学習意識を高めるため、必要とされる情報を適切に提供する仕組みの充実を図る。</p> <p>聞いて得するふるさと講座を市民がより活用しやすいものにする。</p>
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>市民向けの講演会や講座などの情報を集約し、市民に生涯学習情報の提供を行った。</p> <p>聞いて得するふるさと講座を58件実施した。</p>

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	2	3	3	4
	<p>生涯学習情報を広報紙やホームページに掲載し、生涯学習情報を市民に提供することができた。</p> <p>聞いて得するふるさと講座を実施することで、市民の市政に関する理解を深めるとともに生涯学習意識の啓発を図ることができたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった講座もあり、実施件数は58件であった。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>聞いて得するふるさと講座の利用を促進するために市民への周知とメニューの見直しを行う必要がある。</p>					

事務事業	多様な学習機会の提供					
事務事業概要	各年齢期に応じた子育て講座の開催や現代社会が抱える課題から発生するニーズに応じた様々な学習活動を支援するための学習機会を提供する。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>各年齢期に応じた子育て講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学期子育て学習会（16小学校各1回、950人） ・思春期子育て講座（8中学校各1回、1,860人） 					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	3	3	4
	<p>家庭教育力の向上を図るため、各年齢期に応じた学習機会を提供できた。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>子育て学習会は就学時健康診断において実施し、小学校3校で、家庭教育支援チームによる学習の機会を提供する。</p> <p>思春期子育て講座については、学校や地域の特色に応じた講座を開催する。未実施の学校に対して実施を促していく。</p>					

事務事業	生涯学習相談体制の充実					
事務事業概要	生涯学習相談コーナーの一層の充実及び市民自らが行う生涯学習への支援や啓発に努める。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>生涯学習相談コーナーの生涯学習専門員が、市民からの学習相談に応えるとともに、様々な生涯学習情報の提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け生涯学習情報誌 「まなぼうやだより」（年3回発行） ・ボランティア・協働情報誌 「まなぼら」（年4回発行） 					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	生涯学習専門員が生涯学習相談に応じるとともに、生涯学習情報誌を発行することにより、市民に啓発することができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	市民の多様な学習相談に柔軟に対応していく必要があるため、関係機関・団体等とのネットワークの強化を図り、生涯学習情報の収集・発信に努める。					

事務事業	産学公民の教育ネットワークの強化					
事務事業概要	あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができる生涯学習社会の実現に向け、防府市生涯学習推進協議会、行政、市民、民間団体、企業、大学等の連携による教育ネットワークの強化を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	生涯学習推進協議会を開催し、生涯学習事業の実績及び計画について協議を行った。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、文書開催とした。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	山口大学と連携協働して公開講座を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	各施策に沿った取組の検証結果を具体的な取組へ反映させ、事業の充実・発展を図っていく。					

(2) 生涯学習を支える人材の育成と活用

事務事業	生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実					
事務事業概要	講師やコーディネーター等の生涯学習指導者やボランティアに研修の場を提供し、育成機会の充実を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	・生涯学習ボランティア養成講座(2回)					

評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	生涯学習ボランティア養成講座を開催することにより、人材の育成を図り、地域における実践活動を推進することができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	参加者が固定化しており、講座の周知方法を検討するだけでなく、内容の充実を図る必要がある。					

事務事業	ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用					
事務事業概要	ほうふ幸せます人材バンクの充実に伴い、より一層、指導者及び支援者の登録を促し整備を進めるとともに制度のPRを行う。また、指導者バンク登録者による公開講座の開催により市民への周知と積極的な活用を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>指導者バンク登録者による学習会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止になったものも多かったが、学校や公民館、放課後子ども教室などで、121回の学習会が開催された。 ・夏季学ぼうやセミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止としたが、春季学ぼうやセミナー・わくわく学び塾（4講座）は、開催することができた。 <p>支援者バンク登録件数：1,728件</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	<p>指導者バンクについては、夏季学ぼうやセミナーは中止となったが、春季学ぼうやセミナーとわくわく学び塾の開催で市民への周知を図れた。</p> <p>支援者バンクについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度から登録者数が減少した。</p>					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>指導者バンクについては、より広い分野の新しいボランティア講師の方に登録をしていただくことにより、利用も増やしていきたい。</p> <p>支援者バンクについては、学校や地域の協働、連携につながるよう引き続き制度の周知を図り、登録者の増加を図る必要がある。</p>					

事務事業	学習成果発表の機会づくり					
事務事業概要	「生涯学習フェスティバル」の充実を図る。作品展、発表会の開催や、活動のPR展示を行い、日頃の学習成果の発表の場を提供する。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>新型コロナウイルスの各種感染防止対策を行った上、生涯学習フェスティバルを開催した。</p> <p>「学ぼうやコンテスト」では、こういう時だからこそ、みんなと笑顔で乗り越えようという思いから、作品のテーマを「笑顔でつながろう（笑顔の絵）」とし、イラストの募集を行った。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	新型コロナウイルス感染症の影響により、防府市文化福祉会館で開催したが、参加者やボランティア講師の方からは好評であった。					
令和3年度事業の課題・改善点	当日、材料費が必要な講座の周知方法を工夫する。 会場案内の掲示物をより分かりやすく作成する。					

事務事業	社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援					
事務事業概要	社会教育関係団体の自主性を尊重しながら、運営や活動の支援を行う。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>社会教育関係団体への活動支援</p> <p>小・中学校PTA連合会及び防府ユネスコ協会に助成を行った。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	社会教育関係団体の自主性と主体性を尊重しながら、活動を支援することにより、社会教育の充実を図ることができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	引き続き、関係団体の自主性と主体性を尊重しながら、自立につながる支援を行う必要がある。					

(3) 人権学習の推進

事務事業	市民ぐるみの積極的な推進					
事務事業概要	防府市人権学習推進市民会議を中心に市民セミナーや講演会を企画・開催し、市民ぐるみの人権学習を推進する。					
令和2年度の主な取組 (具体的に)	<p>市民一人ひとりが人権尊重の理念について主体的に学び、人権意識の高揚を図るため、防府市人権学習推進市民会議と連携して、様々な人権問題をテーマに講師を招聘し、市民セミナー、講演会を実施した。</p> <p>【実施事業】</p> <p>市民セミナー(4回) 160人(延べ人数)</p> <p>人権講演会 150人</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	新型コロナウイルスの影響により、市民会議総会は書面開催としたため、総会での講演会は実施できなかったが、市民セミナーと人権講演会については、人数制限は行ったものの予定どおり開催した。					
令和3年度事業の課題・改善点	アンケートを参考に、市民のニーズに合ったテーマ・講師の選定を行い、人権学習への市民の関心を高めていく必要がある。					

事務事業	推進体制の充実					
事務事業概要	人権学習推進委員の研修を充実し、地域、職場、学校、団体等における学習機会の充実を図るとともに公民館を拠点とした人権学習を推進する。					
令和2年度の主な取組 (具体的に)	<p>人権意識の高揚と啓発活動を担う人権学習推進委員の研修会を企画・運営し、情報交換及び研修を実施した。</p> <p>【実施回数】</p> <p>推進委員研修会： 1回 参加者： 33人</p> <p>教育集会所(大日会館・北山手会館・右田福祉センター)で、各種教養講座を実施した。</p> <p>【実施講座】</p> <p>大日会館 華道、編み物、珠算(子ども)</p> <p>北山手会館 ペン習字・実用書道、ペン習字(子ども)、珠算(子ども)</p> <p>右田福祉センター 編み物、珠算(子ども)、和裁</p> <p>玉祖・宮市福祉センター 手話</p>					

	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
評価	<p>人権学習推進委員の協力により、所属する地域・学校・団体等において主体的な人権学習会が実施された。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、推進委員の研修会は1回しか実施できなかった。</p> <p>教養講座については、開講が6月からとなり、講座数は維持できたものの、受講者数については、手話講座の受講者数が3割以上減少した。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>推進委員の資質向上を図るため、研修会の実施回数を増加させ、参加者を増やす必要がある。</p> <p>講座については、1講座当たりの受講生増加を図るため、市民に周知していくことが必要である。</p>					

事務事業	人権学習への支援					
事務事業概要	人権学習指導員の派遣や視聴覚教材の充実など、市民の主体的な人権学習を支援する。					
令和2年度の主な取組（具体的に）	<p>市民の主体的な人権学習の支援を行うため、地域や学校、企業、団体等で実施される学習会に、人権学習指導員及び社会教育主事を派遣、又は人権学習啓発のための視聴覚教材の貸出を行った。</p> <p>【派遣回数】 人権学習指導員の派遣 39回</p> <p>【貸出実績】 視聴覚教材（DVD・ビデオ） 40本</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	<p>地域や学校、企業及び団体の主体的な学習会に、人権学習指導員の派遣や視聴覚教材の貸出等の支援を行った。新型コロナウイルス感染症のため、前年より派遣回数、貸出とも減少した。</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	<p>地域や学校、企業、団体等への人権学習活動への支援を拡大していくため、ホームページ、市広報、チラシ等様々な媒体を使って周知する必要がある。</p>					

(4) 生涯学習の拠点となる施設の充実

事務事業	公民館の整備・充実					
事務事業概要	緊急度の高い順に整備及び修繕等を実施しており、引き続き計画的に適切な維持管理を実施していく。 小野公民館進入路開設工事					
令和2年度の主な取組(具体的に)	小野公民館について、建て替える土地に入る進入路を設置した。 他の公民館についても、経年劣化による施設設備の修繕を随時実施した。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	必要な補修、改修を実施し、適切な維持管理に努めることができた。					
令和3年度事業の課題・改善点	緊急度の高い順に補修や改修を行う。小野公民館については建設に着手し、令和4年度の供用開始に向けて備品等の準備を進める。 文化福社会館については、機能の一部をルルサス防府へ移転する等、今後の中央公民館としての在り方について検討を進める。					

事務事業	公民館活動の推進					
事務事業概要	公民館における学習情報の発信に努めるとともに、自治会や関係団体等との連携・協働による多様な学習の場の提供を行う。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	公民館事業である家庭教育学級・女性学級・高齢者教室について、公民館だよりやホームページ等による情報発信を積極的に行い、官公庁や民間の団体等に講師を依頼し、多様な学習の場を提供した。 より魅力的な事業内容となるよう研修会を実施し、また、各公民館の情報を共有できるよう定期的に会議を開いた。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	公民館だよりやホームページ等により情報発信し、また、様々な団体等に講師を依頼することで多様な学習の場を提供できた。					
令和3年度事業の課題・改善点	公民館職員のスキルアップを目指すとともに、発信する情報の充実に努める。また、新型コロナウイルス感染拡大防止としてガイドラインを策定し、感染防止対策を徹底する。					

<p>外部評価者の意見</p>	<p>全般に着実な成果をあげている。「家庭教育機能の強化」におけるヤングテレホン防府は、前年度からの相談件数を大幅に伸ばしている。青少年や保護者に対する支援のさらなる充実が期待される。コロナ禍にあつて開催できなかった講座やセミナー等があったとのことだが、それは致し方ない。今後は別形態での実施等についても検討を進められるとよい。</p>
<p>外部評価者の意見</p>	<p>コロナ禍により最も影響を受けてしまったとはいえ、その影響は今年も続くことが予想される。新型コロナウイルス感染症が終息を迎える時に、良いリスタートが切れるよう準備の一年になると思われます。数値評価を気にされず、無理のない前向きな計画を立てられることに期待します。</p>
<p>外部評価者の意見</p>	<p>全ての事業において、新型コロナウイルスの影響で実施できていないところはあるものの工夫をして実施をされている。</p> <p>生涯学習の拠点となる公民館施設の整備は、早急に実施していただきたい。</p> <p>公民館職員のスキルアップを望むとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しての活動の推進を望む。</p>

〔4〕文化財課

◎ 基本方針

文化財保護意識の高揚と普及を通じて郷土の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、市民共有の財産である文化財の調査や保存・活用に努め、後世に伝えていく。

また、市内各地の文化財を総合的に把握し、市民生活やまちづくりに活用するとともに、文化財情報の発信に努める。

◎郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

(1) 文化財の保存

事務事業	文化財の保存・修理					
事務事業概要	重要な文化財の指定や登録を行い、保全に努めるとともに、傷んだ文化財の修理や文化財のより良い保存環境の整備を進める。					
令和2年度の主な取組(具体的に)	<p>国指定重要文化財である旧毛利家本邸画像堂の屋根葺替及び部分修理(木部、左官、塗装、金物)を実施した。</p> <p>令和2年7月豪雨により被害が発生した旧毛利家本邸奥土蔵の災害復旧事業による屋根の工事に着手した。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	13	3	4	3	3
評価	<p>旧毛利家本邸画像堂は、屋根の葺替及び部分修理を行い、文化財価値の保存に努めるとともに、工事見学会を実施することにより文化財の活用においても効果があった。</p> <p>当日は、一般52名、報道7社の参加があった。</p> <p>旧毛利家本邸奥土蔵は、崩落した屋根の修復工事に着手し、文化財価値の保存に努めた。(令和3年6月完工予定)</p>					
令和3年度事業の課題・改善点	保存修理を必要とする物件が多く、限られた予算の中で優先順位を決めて整備を行う。					

事務事業	文化財調査の継続
事務事業概要	<p>指定文化財の巡視や社寺所有の未指定文化財の把握調査を継続して行う。</p> <p>埋蔵文化財の発掘調査を計画的に実施し、下右田遺跡・車塚古墳の解明に努める。</p>

令和2年度の主な取組 (具体的に)	<p>下右田遺跡東部と車塚古墳で、遺構保存を目的とした計画調査を実施した。市庁舎をはじめ市内3か所では、開発に伴う本発掘調査を行った。</p> <p>また開発に先立つ確認調査(試掘調査)を市内8か所で実施した。発掘調査報告書は令和元年度の発掘調査の報告書1冊、周防国府跡の既往発掘調査報告書1冊を刊行した。</p> <p>悉皆調査は平成25年度から継続中の満願寺の調査を実施したほか、塩田関連資料、河野家資料の調査、庁舎移転に伴う資料館収蔵資料の再確認など、4件約2,500点の調査を実施した。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	10	2	3	2	3
令和3年度事業の課題・改善点	<p>発掘調査出土品・民俗資料・歴史資料については文化財郷土資料館に保管している。整理整頓、収納方法の工夫に努めているが、既に保管スペースが飽和状態であり、適切に保管できる場所を新たに確保する必要がある。</p>					

事務事業	文化財保護活動への支援					
事務事業概要	各種団体が行う文化財保護活動や郷土誌刊行等を支援する。					
令和2年度の主な取組 (具体的に)	<p>防府史談会の文化財活動に対して、補助金を交付した。</p> <p>郷土史研究団体より資料調査の相談を受け、写真撮影や情報提供などの支援を行った。</p>					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>令和2年度は、郷土史研究団体の郷土研究誌の刊行がなく、補助金の交付はなかったが、相談に応じるなど、来年度に繋がる取組を行った。</p> <p>市内の文化財の資料収集・保護に努める防府史談会へ、講演会や講座、研究発表等の活動に対して補助金を交付した。</p>					

令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>郷土史研究団体への郷土研究誌刊行の積極的な働きかけが必要である。なお、令和3年度は2団体が郷土研究誌の刊行を予定している。</p> <p>また、各郷土研究団体の活動に関しては、今後も相談に応じたり共に調査活動を行ったりするなど支援する必要がある。</p> <p>防府史談会が行う文化財の保存・活用の調査・研究等の活動については、今後も継続して支援する。</p>
------------------------	---

(2) 文化財の活用

事務事業	文化財情報発信の充実					
事務事業概要	インターネット等を活用した文化財情報の発信に努める。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	年30回ホームページを更新した。 デジタル情報以外にも市広報への積極的な記事の掲載、関連地区へのチラシの回覧等の案内なども行った。					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	インターネットや市広報等の様々なメディアを積極的に活用することにより、マスコミにもたびたび取り上げられた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	発信する情報の更なる充実ときめ細かな情報発信をしていく必要がある。					

事務事業	文化財郷土資料館の充実					
事務事業概要	文化財郷土資料館を情報発信の拠点として、文化財や歴史資料の収集・保存と公開を行い、展示内容の充実を図るとともに、企画展や講演会等を開催する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展の充実 常設展の展示替えを行い、テーマ性のあるものとした。 ・年間入館者数(令和2年度)は803人 (4月8日～5月25日は休館) 					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	10	2	2	3	3
	コロナ対策として休館、イベントや企画展の頓挫などがあり、情報発信が十分であったとは言えないが、パネルで文化財調査の速報スポットを設けて情報発信に努めた。					

令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>企画展や体験学習について、市民がより文化財に興味、関心が持てる内容にしていく必要がある。</p> <p>また、常設展示についてもテーマ性を持った構成へ改善することや解説方法を研究し、展示内容を充実させていく必要がある。</p>
------------------------	--

事務事業	文化財を活用した事業の実施					
事務事業概要	市指定有形民俗文化財「末田の窯業生産工房及び登窯」を活用し、焼物文化継承事業を実施する。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	「末田の窯業生産工房及び登窯」で指定した範囲の公有地化を行い、地域活動も含めて協働で事業を推進する方向性を示した。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	B	11	2	3	3	3
	予定していたイベント等がコロナ対策で中止になったが、学校と連携した取組みを試行することができ、課題と工夫すべき方法を見出すことができた。					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	これまでの取組みから得た経験知を活用して、伝統に培われた焼物文化を市内外に周知し、楽しめる事業として実践展開できるようにしていく。					

事務事業	英雲荘の整備と公開					
事務事業概要	歴史的遺産の価値を伝えるため、庭園の復元整備や周辺整備を進め、本館を文化・芸術活動のために貸出すなど広く公開し、活用を図る。					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	庭園修復工事で庭園内の修景作業を行い、伝統的な作庭技術により露地や流水景観を心和らぐ空間に仕立てた。 予定していたイベント等はコロナ対策で中止になったが、新たな試みとして、英雲荘を舞台とした文化活動をWeb配信でおこなう事業を協働で取組んだ。					
評 価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	庭園整備は来訪者に好評で成果があらわれてきている。臨時休館もあって対外的には低調に見えるが、協働による管理・運営技術は創意工夫により大いに進展させることができた。					

令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>庭園整備事業の完了後、文化財を適切に保存、活用していくために、魅力ある事業を創出できる実践的な管理運営方法を研究する必要がある。</p> <p>学校と連携し、多くの児童・生徒に英雲荘を訪れてもらえるように働きかけたり、市民が楽しめる文化活動の空間として利用を促進する事業をおこなっていく。</p>
------------------------	---

事務事業	歴史・文化の学習機会の提供					
事務事業概要	<p>文化財郷土資料館主催の講演会や体験学習、市民ボランティアと連携し市内の文化財や歴史遺産の見学会、発掘調査の現地説明会、公民館等での講座や講演会を実施する。</p> <p>市民の学習活動の中で、文化財や歴史資料の提供を行う。</p>					
令和2年度の 主な取組 (具体的に)	<p>発掘調査を一般に公開するため、調査現地での説明会を3現場にて実施し、市内外から計288人が参加した。そのうち1件については、発掘調査体験を実施し、市内から11人が参加した。</p> <p>文化財建造物修理現場の公開説明会には市内から計60人が参加した。</p> <p>山口県立大学との共同研究の成果を示す公開シンポジウムでは、市内外から190人が参加し、さらに発表資料集を刊行した。</p> <p>自治会や学校主催等の講座について、年に16回講師を務めた。</p>					
評価	総合評価		到達度	事業効果	効率性	方向性
	A	12	3	3	3	3
	<p>発掘調査体験・現地説明会・シンポジウムの開催については、コロナ禍により市外への情報発信は控えたにもかかわらず市内を中心に多くの参加を得、市民の文化財や地域に対する意識・愛着の向上につながった。</p>					
令和3年度 事業の課題・ 改善点	<p>コロナ禍のなかでのイベント開催には多くのリスクが伴うため、開催のための準備・運営に対する体制づくりや業務の見直しが必要である。また、中期的な企画展・体験イベントの実施計画を作成する必要がある。</p>					

<p>外部評価者の 意見</p>	<p>全般に着実な成果をあげている。「文化財調査の継続」が昨年度に比べ評価を下げているが、市庁舎敷地遺跡において想定を超える遺構と遺物が出土したためであり、致し方ないと考えられる。「文化財郷土資料館の充実」は、コロナ禍にあってもパネルを用いた情報発信に努めており、他事業にとってもヒントになるのではなかろうか。</p>
<p>外部評価者の 意見</p>	<p>文化財を多く有する防府市の強みを活かせるよう、整備補修はしっかり継続し、幕末関連に謂れのある富海地域にも着目し、防府市の強みとなるよう取り組まれることを期待します。</p>
<p>外部評価者の 意見</p>	<p>郷土の文化財の保存管理及び保護活動に対する補助も含めた環境の整備をお願いしたい。</p> <p>さまざまな事業が新型コロナウイルス感染防止対策で中止になるなど思うような活動ができていないが、工夫して活動ができるよう望む。</p> <p>発掘調査は順調に実施できていると思う。</p> <p>コロナ禍での体制づくりや業務の見直しを実施し、実施計画を作成してほしい。</p>

■ 学識経験者の総評

【学識経験者】

山口大学 教育学部 佐々木 司 教授

【意見】

防府市教育委員会の「教育行政点検・評価報告書（対象：令和2年度事業）」について意見を述べさせていただきます。

本報告書では、教育総務課所管の1事業が「B」、学校教育課所管の2事務事業が「AA」、2事業が「B」、生涯学習課所管の4事業が「B」、文化財課所管の3事務事業が「B」である他は、いずれも「A」と評価されている。「A」という評価は、記載内容からみておよそ妥当であると判断できる。

昨年度の評価と見比べると、今年度は「B」評価がやや多くなっている。しかし、そのほとんどは新型コロナウイルス感染症が影響したものであって、致し方ないと考えられる。報告書からは、コロナ禍で行事を思うように開催できない、来館者が伸び悩むといったなかでも、それぞれの事業を何とか充実したものにしようと努力してこられた姿が伝わってくる。

その報告書であるが、従来に比べ、記述が手厚くなったり、わかりやすくなったりしている箇所があり、その点は評価したい。例えば、教育総務課の「修学支援の充実」には、奨学金制度の見直し内容が簡潔に書かれている。学校教育課におけるキャリアパスポート「夢ノート」については、効果的な活用方法が中学校区で協議されたことが記されている。これは学校間連携、地域と家庭との連携を促進させる取組としても望ましいと考えられる。

一方で、もう少し説明があればよいと思われるものもあった。例えば、学校教育課における「食育の推進」は、総合評価で「AA」と評価されている。前年度の評価は「A」であり、そのときの課題・改善点としては、栄養教諭が配置されていない学校で学校教育課の指導が充実するよう、各校の好事例を取りまとめて発信する必要があると記載されていた。昨年度から何をどのように改善した結果、その評価になったのかがわかりやすく書いてあれば、よりよいものになるだろう。

このような気づきはあるものの、防府市の教育行政はおよそ良好に執り行われており、点検・評価も妥当であると考えられる。コロナ禍にあって、当初の計画通りには進みにくいなかでも堅実な事業運営がなされていることに敬意を表し、防府市の教育が今後さらに発展し続けることを期待したい。